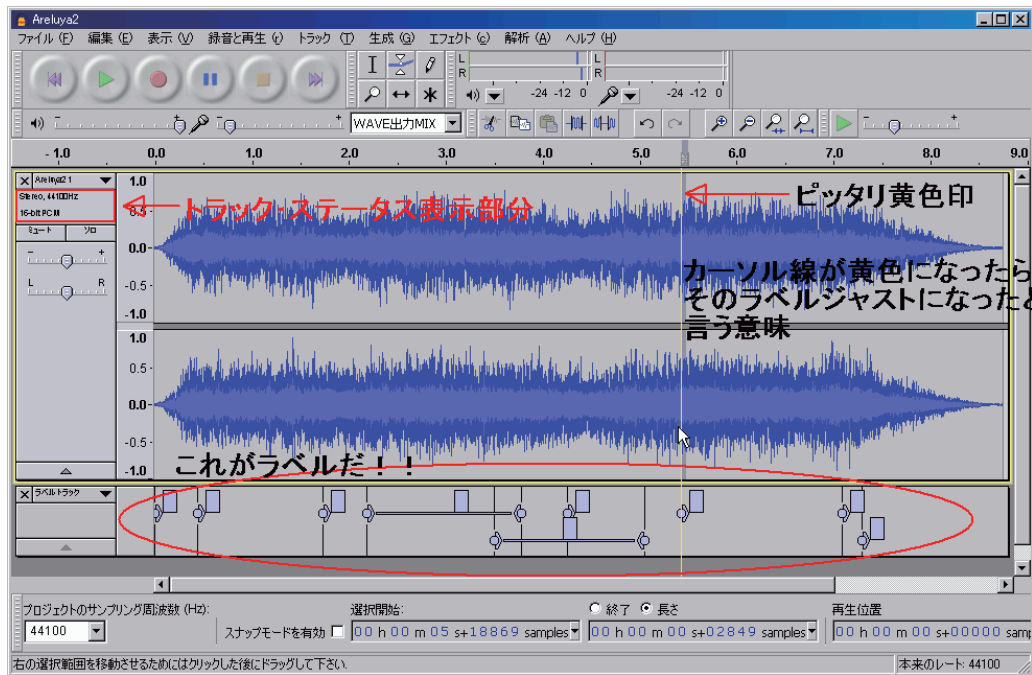


audacity の特徴として、ラベル機能が充実していることがあげられる。



編集を行うには

- 1) 範囲あるいは位置を指定し
- 2) 作業命令 (編集コマンド) を実行することが基本操作だ。

筆者は 30 年以上も制作者として仕事の傍ら、多くの後進の所作も観察してきた。その結果言える事は、上手では無い者の作業は、そもそも 1) の範囲や位置の確定が甘い、ということが原因である場合が多い。

とくにこの作業の習得率が低下したのは、DAW の教育への導入と同時であると断言できる。

それまでは聴いてポイントを見つけ、テープ上にマークを打つ、と言う作業から、画面上の波形データを見ながら、目的のポイントを見つける作業に転換したときからだ。すでに演奏が始まっているところから切り出し (頭が欠けている)、まだ余韻が残っているのに、終了している、と言うパターンが多い。

正直なところ、普通に波形を見ながら、目標のポイントを見つけられるかと言うと筆者でも困難だ。結局は耳で聴いて判断することになるが、それ以前に波形を拡大し、ズームアップしなければ見つけることなどできない。



この状態で、およそ 10 段階のズームアップだ。粒粒が見えるが、その一つ一つがサンプル (最小単位) だ。この参考写真ではレベルが比較的高い部分だが、実際に「頭が欠けず」「余韻も落とさない」位置決めは、結構労力がかかるものだ。

せっかくポイントを見つけても、次のポイントを見つけるためにズームダウンすると先のポイントは失われてしまう。実際の編集作業の集中力の大部分は、この位置決めなのだが、audacity では極めて能率的な補助手段が用意されている。それが「ラベル」の機能だ。

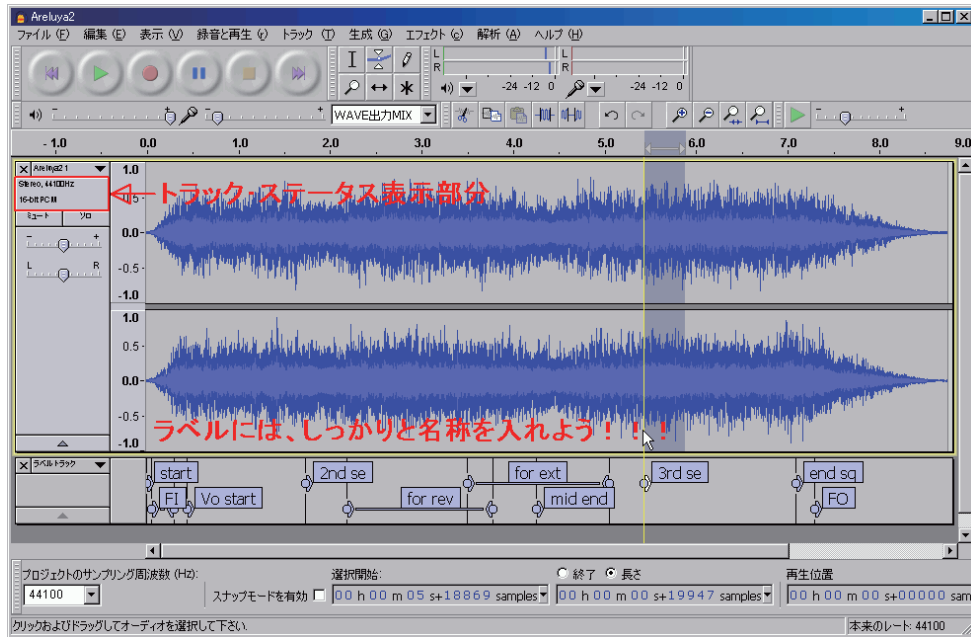
☆ラベル (基本ツールは「選択ツール」(F1)であること)

ポイントを見つけるには、ズームとヒアリングで根気よく作業する必要があるが、そのポイントが見つかったなら、

- 上段にある「トラック」→「選択範囲にラベルをつける」をクリックするか、
- **Ctrl+B**(ショートカット) を操作しよう。すると自動的に新しい「ラベルトラック」が出現する。
- 次にそのラベルには、好きな名称を入力することができるので、後から識別できる名称を書き込もう。(英数半角が望ましい)

このラベルは 1 サンプル単位の精度を持つ、極めて有用な機能で、これをもとに編集や書き出し、エフェクトをかけることができる。一つ一つがポイントでも、ドラッグしたときに最寄のラベルに「自動引き込み」の機能があるので、容易に範囲指定に切り替えることができる。

自動引き込みされたときには、カーソルが黄色く変るのですぐにわかるだろう。範囲が確定したなら、そこにもラベルを付け、名前をつける。



位置決定→編集、を繰り返すのも悪くは無いが、集中を要する位置決めは、そればかりまとめてやると能率が良い。もちろんきちんとヒアリング確認しなければならないことは、言うまでも無いことだ。

とにかく最初は、ラベルを付けて付けて付けまくろう！！！！！！  
上達とともに、必要なラベルがわかってくるはずだ。

＊＊範囲を指定し(指定した部分の色が濃くなった状態で)、再生ボタンを押すと、その指定した部分だけが再生される。Shift ボタンを押しながら、再生ボタンを押すと、選択範囲をエンドレス再生できる。

もし指定範囲が不適切で、範囲の開始場所がもっと前の方だったとしよう。そんなときは、範囲の開始場所付近に、カーソルをそっと近づけてみよう。カーソルの形が「I」から指差し印に変わるはずだ。指差し印の状態では、その開始場所をドラッグで修正できる。終了場所でも同じだ。

＊ただし、再生中にはこの変更ができない。必ず再生を停止しなければならない。

納得できる範囲指定ができれば、ただちに **Ctrl+B** で、ラベルを打とう。

＊不要なラベルはラベル名称札部分をクリックし、Del キーで消去できる。

audacity のほとんどすべての操作は、ラベルを併用することで、格段に精度と作業速度を向上できる。何としてでも、この作業を手早くできるよう練習しよう。

ラベルを付け終わったら、さあ編集だ！！

苦勞して作成したラベルは、ラベル単体で書き出しをすることができる。画面左上の「ファイル」→「ラベルの書き出し」で、書き出し場所とファイル名称を入力すると、保存することができる。

この保存されたファイルは、プレーンテキスト(メモ帳で読み書きできる)ファイルで、

開けば何がどういう意味なのかは、すぐに理解できるだろう。

再び **audacity** で読み込み、使用するには、画面左上の「ファイル」→「取り込み」→「ラベル」でファイル位置を教えれば、復活する。

### <参考>

ちなみにラベルの名称は、名称ではなく、歌詞のような長いものでも問題なく使用できる。**ver,1.3.8**～では「歌詞プロンプター」の機能が追加された。「表示」→「カラオケ」・・・・・・・・。このプロンプターは独立した画面なので、2画面表示すると様々な使い方ができるだろう。

**注意)** 英数半角以外をラベルに使用し、プロジェクトファイルに保存すると、そのプロジェクトファイルが読み込めなくなることがあるらしい。その危険を回避するにはラベル単体でファイル出力で別保存し、トラックから消去、履歴からも抹消し、プロジェクトを保存する。

歌詞を貼りこむ場合、**1)** 小節毎（あるいはメロディー部分一塊毎）に、ラベルを付ける。**2)** テキスト形式の歌詞カードを用意。**3)** 歌詞カードの必要部分を範囲指定し（ドラッグで）、**4)** **Ctrl+C** でコピー、**5)** そのラベルパネルをクリックし、**Ctrl+V** で、効率的に貼り込める。

この作業も面倒な場合、一旦書き出して、二つのテキストファイル間で貼り付け、再び読み込んでよい。

★ラベルトラックは、複数使用することができるが、ラベル書き出すとすべてのラベルトラックはマージ（合体）され、一本のラベルになってしまうので注意。